

平成 30 年度第 1 回生駒市学研高山地区環境保全対策委員会会議録

1 会議名称 平成 30 年度第 1 回生駒市学研高山地区環境保全対策委員会

2 開催日時 平成 30 年 8 月 31 日(金) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 15 分

3 開催場所 エコパーク 2 1 管理事務所 2 階研修室

4 出席者 出席委員 7 名

(学識のある経験者)

伊木雅之 委員長

岸本憲明 委員

中西達也 委員

(関連のある自治会代表)

中嶋 吉春 委員

松尾 和司 委員

福本 定 委員

中山 隆義 委員

事務局

市民部 奥田部長

環境保全課 竹本課長、奥田課長補佐、北里、山本、栗巢

上下水道部

下水道課 松井

関係者

中外テクノス(株)

傍聴者 0 名

5 会議次第

1 開会

2 役員選出

3 案件

(1) 奈良先端科学技術大学院大学遺伝子組換え生物(シロイヌナズナ)漏出事故に係るモニタリング調査について

(2) 奈良先端科学技術大学院大学 RI 施設の改修工事について

(3) 学研高山地区における監視測定結果について

(4) その他

6 配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ 資料 1 遺伝子組換え植物のキャンパス内漏出事故の対応について
- ・ 資料 2 奈良先端科学技術大学院大学 放射線実験施設縮小（工事）について
- ・ 資料 3 生駒市学研高山地区に係る調査結果報告書
- ・ 資料 4 生駒市学研高山地区に係る調査結果まとめ
- ・ 資料 5 生駒市学研高山地区環境保全対策基本方針
- ・ 資料 6 生駒市学研高山地区環境保全対策委員会条例

7 会議経過

- ・ 部長挨拶
- ・ 出席者紹介
- ・ 会議の成立について
生駒市学研高山地区環境保全対策委員会条例第 7 条第 2 項の規定により、委員 10 名
中 7 名の出席のため会議は成立
- ・ 会議の公開について
公開 傍聴者 0 名

会議次第 2 役員の選出

<事務局>

自治会長の交代に伴い、副委員長が不在になっておりまして、その初めての委員会となりますので、副委員長の選出をお願いしたいと思います。資料 6 の生駒市学研高山地区環境保全対策委員会条例第 6 条第 1 項で、「委員会に委員長及び副委員長を置く」同条第 2 項で「委員長及び副委員長は、委員の互選により定める」とされている。委員に意見を求める発言。

<委員>

副委員長に地域の代表として中嶋委員をお願いしたい旨の発言。

<委員>

了承。

<事務局>

中嶋副委員長席移動。

伊木委員長に本日の会議における運営をお願いする発言。

5 会議次第 3

案件（1） 奈良先端科学技術大学院大学遺伝子組換え生物（シロイヌナズナ）
漏出事故に係るモニタリング調査について

<委員長>

事務局に説明を依頼。

<事務局>

資料に基づき、説明。

<委員>

モニタリング結果について、生駒市に報告があるのかとの発言。

<事務局>

平成30年5月28日付で市長宛に大学院大学から報告がなされている。との回答

<委員長>

毎年1回ですか。との発言

<事務局>

大学院大学の敷地の外は年1回、敷地内が年4回、大学院大学で調査されております。
との発言。

<委員長>

敷地内の調査も、毎回報告があるのですか。との発言。

<事務局>

それはいただいてないです。との発言。

<委員長>

まとめて報告ですか。との発言。

<事務局>

そのとおりである。との発言。

<委員>

対策は今こういうことで問題がないという報告ですね。原因は、どういうことやったの
ですか。との発言。

<事務局>

研究施設に出入りする職員の服に、種がくっついた結果外に出てしまったのが原因のよ
うです。との発言。

<委員>

服について出ないように対策が取られるといくことですね。との発言。

<委員長>

私も、すべて覚えてるわけではないですが、何か所か実験室があつて、受精したそのシ
ロイヌナズナを持ち歩いてたんです。実験室間で持ち歩いてて、しかも、その1つの実
験室には扉が1枚しかなくて、2回、2つの扉で隔離されたような状態になっていなか

った。それと、靴の履き替えですね。スリッパの履き替えみたいなこともきちんと行われていなかったということ。それから、白衣の着替えです。それも十分じゃなかったということで、白衣について、そのまま外に落ちてというようなことが起こってしまったと。実験室を改造することと、扉を二重にする等です。で、*白衣や靴、スリッパの履き替えをきちんとする等が提案されていました。それが、実際行われているということだと思います。実際、この取り組みについて、資料1のほうにも、すべての実験場所において、法令、マニュアルを遵守の上、実験を実施していることを確認したということですので、そういうことはちゃんと行われているということなんだろう。との発言。

<委員>

そういうマニュアルを再確認して行われているですね。との発言。

<委員長>

実際、この漏出事故が1回起こったために、大学の実験が、動物実験含めて3か月ぐらい、植物実験はもう、半年から1年ぐらい、止まったんです。これは、大学で実験をする研究者にとっては、もう死活問題で、大変なことだったと思います。だから、二度とこんなことがあっては困るということで、みんな今のところ、すごく気合は入っていると思います。との発言。

<委員>

了解しました。

<委員長>

これを10年間続けるのですか。との発言。

<事務局>

大学院大学からは、10年間調査を行っていきますということで、報告いただいております。との発言。

<委員>

これは、事務局に対する要望ですけど、委員の方に交代がありますので、継続的に委員をしますと、どういう出来事があってっていうのはわかりますけれども、新任の委員の皆さんって分からない、ご質問いただいている、元々何があったのかもわからない状態で、この報告だけ受けて、とにかく大丈夫みたいということになると思うんです。ですから、先ほど口頭でお答えになったこと、ペーパー1枚ぐらいでもいいと思いますので、まとめておかれたほうがいいんじゃないですかね。これ、確か学外には出てなかったんですよね。との発言

<事務局>

学内には出てないはずです。との発言。

<委員長>

一番最初の漏出事故が起こったときも、学外にもシロイヌナズナがあったので、それはもうみんなびっくりしたのですが、それはすべて取ってしまいました。との発言。

<委員>

地元で元々ある種類ですか。との発言。

<委員長>

元々自生していた種類で、遺伝子組み替えでなかったという報告でした。との発言。

<委員>

それも、学内の問題なのか、学外まで波及してるのかっていうのは、恐らく、地域の方にとって大きな関心事だと思いますので、そこだけでも、先ほど申し上げたペーパーのなかに触れておいていただければと思います。との発言。

<委員長>

他に意見を求める発言。

モニタリングが10年間続くということで、2026年まで続くことになっています。今後もこの委員会に報告させることになっていますので、しっかり見ていきたい。つぎに移ります。との発言。

案件（2） 奈良先端科学技術大学院大学 RI 施設の改修工事について

<事務局>

資料に基づき、説明。

<委員長>

RI 施設の縮小ということで、前回協議していただきました。その結果が、今日報告されたので、無事終了したということですが、何か、ご意見ご質問、ございますか？RI 施設の縮小ということで、新築や拡張ではないので、そう大きな問題ではなかったとは思いますが。いろんなところで今、縮小工事をやっています。実際、私の近畿大学の医学部でも、縮小ではなく、もう廃止にしております。RI 使うと管理が大変だし、それ以外の測定技術も発達していつているので、代替技術があるってことです。先端大は、半分にするということです。それも、行われ、終わって、またモニタリングも始まっているということです。よろしいですか。

<委員>

了承する。との発言。

案件（3） 学研高山地区における監視測定結果について

<事務局>

資料に基づき、説明。

<委員>

各事業所が公的機関に出された結果ですか。公的機関の証明書のある結果ですか。との発言。

<事務局>

そのとおりである。との発言。

<委員長>

資料4の一番最後に異常になった項目について一覧表が載っています。西浦川や調整池で水素イオン濃度が上がるのは、毎年あることで、これを防ぐのは難しい。後、井戸水に鉄やマンガンが多いのは地層のなんでしょうね。どちらも対策が取りようがないです。飲まないようにさせていますか。との発言。

<事務局>

井戸調査地区の中で1ヶ所だけ、自宅で飲料として使用されています。そこは鉄・マンガン除去装置を自前で設置されています。との発言。

<委員長>

資料3の経年変化のデータを見ていただくと過去に比べて高くなっているか、今低いかどうか分かります。水素イオン濃度は今までと同じくらいです。山田川は、少し下がってきている傾向がある。との発言。

<委員>

No.1の井戸の色度と濁度をみると、一時期超えている時期があります。情報があれば教えていただきたい。との発言。

<事務局>

基本はすべて農業用です。No.3の井戸は自宅用に使われている。どのような経緯であるか把握していません。との発言。

<委員>

No.1の井戸の所有者です。理由としては、採集方法のミスです。業者が水の採取方法を間違えたので、それを除けばこのような数字にならない。との発言。

<委員長>

平均値も結構高いが、単年度で高い時が影響していますか。との発言。

<委員>

単年度で終わったと思います。それ以降採取方法を指示しています。との発言

<委員>

わたしも、農業用井戸を自分で使用しますが、使用する際に鉄分ばかり出てきます。採取するタイミングで濃くなります。比較的落ち着いた段階で水を採取すれば違ってきます。との発言

<委員長>

測定機関は、認証を受けている機関なので、きちんと測定しないと困る。との発言。

<委員>

農業でいろいろな設備をつけているため、採取場所を間違えるととんでもない結果になります。との発言。

<委員長>

他に無いか。無いのであれば、これで調査結果については了承したい。との発言。

案件（4） その他について

<委員長>

事務局に発言を即す発言。ないため、これで委員会を終わる旨の発言。